2Ma-4

住意識と居住歴との関連性

女子大学生とその母親の住宅及び住生活に対する考え方

○鈴木 佐代　沖田 富美子（日本女大）

〈目的〉住宅及び住生活に対する考え方（住意識）は，時代，年齢（ライフステージ），あるいは個人的な居住経験などによって規定されるが，またその住意識の変化は，住宅や住生活にも影響を与える。本研究では、この住意識と居住歴との関連を明らかにすることが目的である。本報では、女子大学生とその母親の住意識について分析した結果を報告する。

〈方法〉1998 年 5～8 月に，都内大学の女子大学生とその母親を対象にアンケート調査を行った。調査内容は、住宅及び住生活に対する考え方、結婚以来の家族の居住歴である。有効サンプルは，学生と母親の双方から回答が得られた 117 件である。

〈結果〉住宅及び住生活に対する考え方について、世代間の比較、親子同士の比較、属性との関連などを検討した結果、①親子ともに約 2/3 が定住志向、戸建志向であり，一般的な住宅に対する考え方には世代による違いは見られない。世代の違いが見られるのは，住宅の機能と外部の施設・サービス利用，家族（自分）の時間重視，家族以外の他人と住むという考え方等の生活や家族に関わる項目である。②母親の場合，戸建志向のものは，住宅に多くの機能を持たせ，家族との時間を重視する傾向がある。③親子同士の回答で有意差が認められるのは、戸建志向，家族（自分）の時間重視，他人と住むという考え方である。④属性との関連では，現在の居住地域，住居形態，家族型などとの関連が見られる。